**第8回　河原地域振興会議**

日　時　平成31年2月21日（木）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　午後1時30分～午後3時00分

場　所　河原町総合支所　第6会議室

**〔出席委員〕**

竹田賢一会長、小谷加代子副会長、山縣恒明委員、楮原典子委員、倉信　敬委員、　　　中村佳紀委員、坂本悦子委員、河毛　寛委員、西尾　純委員、奥谷仁美委員、

坂本綾子委員　以上11名

**〔欠席委員〕**

荻原元春委員

**〔出席議員〕**

荻野正己市議会議員

**〔危機管理課〕**

　益田主事

**〔事務局〕**

遠藤支所長、九鬼副支所長、西山市民福祉課長、前田産業建設課長、平尾地域振興課課長補佐

**〔傍聴者〕**

なし

**会議次第**

1. 開　会
2. 会長あいさつ
3. 報告・協議事項

（１）防災行政無線のデジタル化整備事業について（危機管理課）【資料1】

（２）地域内情報伝達設備整備事業について【資料2】

（３）河原地域における乗合タクシーの運行について【資料3】

（４）その他

　４　その他

　５　閉　会

**議事概要**

1. **報告・協議事項**

**（１）防災行政無線のデジタル化整備事業について（危機管理課）【資料1】**

（鳥取市危機管理課　益田主事　　資料1により説明）

　（委　員）デジタル化整備事業によって外部スピーカーを増設するとのことだが、聞こえにくい場所などを調査し、設置場所を決定するのか。

（事務局）そうです。また、雨や風などの外的要因のほか、現在は2重サッシなど家屋の機密性の向上により、屋内において防災行政無線の音が聞こえにくい状況もあり、この点は、鳥取市としても問題と捉えています。その対策として防災ラジオの整備を予定しています。自動で起動するほか防水機能など、万が一、屋外に避難する場合でも避難所に持っていけるように配慮しています。

（委　員）防災ラジオについては、3,000円の自己負担で購入できるという事か。また、そのラジオは地域情報とも共有できるか。

（事務局）申し訳ありませんが完全に別のもので、防災情報のみになります。

（委　員）そうなると家の中に２つつけないといけないという事だ。

（事務局）そういうことになります。

（委　員）ＦＭなども聞けるのか。

（事務局）はい。ＮＨＫやＦＭ山陰などを流していても緊急情報に変わります。

（委　員）企業についても同じように3,000円で購入できると理解してよいか。

（事務局）はい。鳥取市では、防災情報に不安がある方すべてを対象としておりますので、購入は可能です。

（委　員）防災ラジオで流される内容と自主防災会長や民生委員宅に設置される戸別受信機で流される内容は同じか。

（事務局）基本は同じ内容ですが、戸別受信機は、河原町に限った情報が流れます。防災ラジオは、全市の情報が流れることになり、例えば火事が発生した場合の河原町の放送についても全市に流れることになるため、運用については引き続き検討します。

（委　員）自主防災会長などではない場合、戸別受信機を設置できるのか。

（事務局）一般的には対象外です。

（委　員）河原地域の多くの市民が防災無線のデジタル化や地域内情報整備事業のことを知っていない。部落長会などでしっかりと伝えてほしい。

（事務局）これまで部落長会や地区座談会などではお伝えしています。また、先日の部落長会でも説明しましたが、4月の部落長会総会の時に詳しい説明をする予定です。

**（２）地域内情報伝達設備整備事業について【資料2】**

（地域振興課　九鬼課長　資料２により説明）

（委　員）新たに既存の集落放送設備と音声告知専用端末機器の接続についても補助の対象になるとのことだが、これが一番いいように思う。費用はいくらぐらいかかるか。

（委　員）補助の対象になるのが１５万円ぐらいで１/２の補助があります。その他にケーブルテレビの加入費用と利用料が必要です。

（委　員）有線放送を更新して音声告知専用端末器の中継機器を設置することも可能か。

（事務局）可能です。なお、有線放送の新設か既存施設の大規模修繕が対象で、補助率は１/２、補助金の上限は250万円です。

（委　員）地域内情報伝達設備を整備するためには費用がかかるが、今後、支所からの放送内容をどのように考えているのか。お金を払ってでも必要な情報なのかどうか。どの整備をするのか判断の材料になると思う。

　　　　　集落内だけの情報伝達だけで良いという事になると現に有線放送などがある集落はこの制度を利用しなくてもよい。

（事務局）放送内容については検討します。防災情報は、防災ラジオにより屋内で聞くことができるようになりましたので、防災情報とは切り離したかたちで、集落で話合っていただき、決めていただくことになります。

（委　員）ＦＭ鳥取で地域のイベント情報などは流してもらえないか。

（事務局）市の広報関係の連携という事になると思います。

（委　員）前回も言っているが、アナログをデジタルに変えるのは我々が要求して変える訳ではないので、費用は全部行政が負担されるのがあたり前だと思う。

近年、各所で災害が起こると言われているが、防災ラジオの購入について、事情により購入できない方とか、或いは弱者の方に対してどういう措置をとるのか。

（事務局）そのことに関しても検討しましたが、防災情報に不安がある方すべてを対象とする方針のもと、販売金額を一律に低く設定する予定としています。

（委　員）情報を得るために我々はお金を出さないといけない。お金が出しにくいために対応出来ない人もいる。いざとなったら逃げないといけない。そのために、防災ラジオや防災無線での情報が必要になってくる。このことをどのように考えているのか。

（事務局）これまでは無償で防災無線の伝達をやっていたところですから、ご理解いただけない部分があるとは思いますが、今回はツールを１つ提供するということで、全てが全て解決するとは思っておりません。これは、より災害・被災するリスクを減らすというもので、基本的には共助というところに至ってしまいます。

（委　員）屋外の防災無線で災害情報を得るのが基本で、それでも聞こえない場合は、屋内に防災ラジオを販売するとの事だが、買えない人の対策は必要だと思う。買えない人は貧困のために命が守れないという事になってはいけない。行政がその対策をしっかりとする必要があると思う。

（委　員）防災の原則は自助である。災害発生時には、消防や警察がすべての家庭の通報に対処しきれないのと同様に、行政の限界を理解して、自分の身は自分で守ることが原則であると我々も理解しなくてはならない。

（委　員）河原の地域振興会議でこういう意見がありましたと持ち帰ってもらって検討していただきたい。

（事務局）はい。一旦持ち帰らせていただきます。

（委　員）災害時に健康な人はすぐ逃げられると思うが、誰一人取り残さないということから、障がいのある方とか、子ども達への対策、また、収入の少ない方等への防災ラジオ導入に係る負担の軽減など、弱者にやさしい町づくり、市政運営が一番大事だと思う。是非ご検討いただきたい。

**（３）河原地域における乗合タクシーの運行について【資料3】**

（産業建設課　前田課長　資料３により説明）

（委　員）運転業務については、シルバー人材センターに登録された会員が行い、会員の

登録は６０歳以上の者とのことだが、上限はないのか。

（事務局）上限はありません。

（委　員）業務ができるかどうかの判断は、シルバー人材センターがされると思う。

（委　員）今の利用率はどのくらいか。また、長期的にみて行政はどう考えているのか。

（事務局）和奈見・国英線の散岐小と河原第一小の小学生が乗車をする便は、年間１，０００人から２，０００人ぐらいです。予約便では０人という便もかなりありますが、これはスタートの時に、小学生や中学生が乗る便だという認識をもたれている方もあり、大人は乗れないと思った方もあったようです。

今回は、暫定的な措置として市がシルバー人材センターと委託契約を結んで運行しますが、将来的には、地域で公共交通のあり方について議論し、対策を検討していただくことも必要と考えています。

（委　員）運転するには、資格が必要か。

（事務局）４月１日以降は、白ナンバーでの有償運行になりますので、１種の方でも講習を受けて運転できます。なお、現在、運転されている方が、シルバー人材センターに登録される動きも聞いており、経験のある方に運転していただければ非常にありがたいと思っています。

（委　員）小学生の通学バスでもあり、くれぐれも安全な運転をお願いする。

（委　員）乗合タクシーの乗車定員は何人か。また料金はいくらか。

（事務局）乗車定員は、運転手を入れて１０人で、料金は２００円です。

（委　員）車椅子の対応ができる車両は、佐治・用瀬・河原では１台もないが、１台くらいは配置できないか。

（委　員）老人保健施設は福祉車両を持っているので相互で協力することを考えてもいいのではないか。

（事務局）今後、市町村有償運送と福祉有償運送の両方の制度について検討していきたいと思います。

（委　員）では第８回河原振興会議はこれで終了いたします。